



「審議まとめ」から

^{かじ}
自らの人生を舵取りすることのできる民主的で持続可能な社会の創り手の育成

－教育課程の充実・改善を基盤として支える取組－

「『好き』（興味・関心）を育み、『得意』を伸ばす」と「当事者意識をもって、自分の意見を形成し、対話と合意ができる」を両輪で実現する上では、「学びに向かう力」や学習の基盤となる資質・能力、柔軟な教育課程との関係についても整理する必要がある。



【学びに向かう力、人間性等との関係】

- ◆ 「学びに向かう力」の4要素（「初発の思考や行動を起こす力・好奇心」「学びの主体的な調整」「他者との対話や協働」「学びを方向付ける人間性」）は、両輪での実現との親和性が非常に強いことから、各教科等では、「知・技」、「思・判・表」、「学びに向かう力」を一体的に育成する重要性が一層高まる。
- ◆ 加えて、両輪での実現を支える上で重要な役割を果たす総合的な探究の時間や特別活動は、それぞれ興味・関心に基づき意味や価値を創造する特質（初発の思考・行動、好奇心等）、民主主義の担い手の育成や共生社会の実現に向けた基盤としての特質（他者との対話や協働等）をもったため、「学びに向かう力」との関わりが極めて強いものである。
- ◆ さらに、「学びに向かう力」との関わりが深い、自制心、実行機能と呼ばれる能力、人と協働する能力など、いわゆる非認知能力とも、両輪での実現は関わりが深いと言える。

【学習の基盤としての資質・能力との関係】

- ◆ 両輪での実現を図る上でも、人間ならではの思考やコミュニケーションの基礎を担う言語能力、思考やコミュニケーションの強化・拡張を担う情報活用能力が「学習の基盤となる資質・能力」として相補的に高まり合いながら機能していくことが重要である。

【調整授業時数制度との関係】

- ◆ 両輪での実現を図る際に、各学校で調整授業時数制度を活用し、重点的に取り組む既存の教科等に調整授業時数を上乘せしたり、裁量的な時間の学習枠で総合的な探究の時間等で設定した個人探究課題を深掘りしたり、研究・研修等枠でそのための教材研究や研修等を必要に応じて実施し、各学校の課題やねらいに沿った具体化を図ることも考えられる。

以上のように、「『好き』（興味・関心）を育み、『得意』を伸ばす」と「当事者意識をもって、自分の意見を形成し、対話と合意ができる」の両輪による実現は、各教科等が相互に関連を図りながら、各学校や地域の状況も踏まえつつ実施することで実現するものであり、教育課程の編成・実施の全体で強く意識すべきものでもある。